

令和 6 年度
学校関係者評価報告書

令和 7 年 3 月
学校法人大志学園
武蔵野学芸専門学校

武蔵野学芸専門学校 学校関係者評価報告書について

武蔵野学芸専門学校 学校関係者評価は、武蔵野学芸美術教育研究所に所属する、美術、および美術教育に精通した方々を委員として選任し、

現状における課題について助言を得る貴重な機会としても位置づけ、必要な改善、学校運営や教育実践力等の向上に役立てることとする。根底に本校が従来から伝統的に取り組んできたものについてその価値を見極めて頂き、今後も継続できるよう客観的に評価して頂いた。

1. 実施日時 令和 6 年 9 月 14 日 (土) 10 時 00 分 ～ 13 時 00 分

2. 実施場所 武蔵野学芸専門学校 2 号館

3. 実施方法

実施組織：武蔵野学芸美術教育研究所

○評価委員

立島恵 公益財団法人佐藤国際文化育英財団 理事

中村美知枝 元東京都美術工芸研究会理事長

有賀三夏 金沢大学 融合学域 講師、明治大学・死生学・基層文化研究所研究員

○学校関係者

増田哲也 学校法人大志学園 理事長

三上慎之介 武蔵野学芸専門学校 校長

小西航生 武蔵野学芸専門学校 高等課程長補佐

長岡聡之 武蔵野学芸専門学校 専門課程長補佐

坂本真奈美 武蔵野学芸専門学校 事務長

4. 学校自己評価報告書について

(a) 評価基準：文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」に準拠

(b) 評価項目：

次の 10 項目について実施

項目 1 教育理念・目的・人材像

項目 2 学校運営

項目 3 教育活動

項目 4 学修成果

項目 5 学生支援

項目 6 教育環境

項目 7 学生の募集と受け入れ

項目 8 財務

項目 9 法令等の遵守

項目 10 社会貢献・地域貢献

(c) 評価項目に対する評価 4 段階評価で点数評価した。

[4 : 適切 3 : ほぼ適切 2 : やや不適切 1 : 不適切]

5. 学校関係者評価報告書の作成について

上記の学校自己評価報告書を基に各項目について評価を頂き、討議を深めた。コメントは以下の様にまとめた。

(1) 教育理念・目標

本校が所属する創志学園グループの理念【夢、挑戦、達成】を基に、3つのアドミッションポリシーを策定している。

- ① 世界を知り、思考し創造する力を養う
- ② 0から1を生み出せるプロフェッショナルを育てる
- ③ 表現する喜びと実行できる強さを身に付ける

これらのポリシーに基づいた美術教育を実践し、世界を舞台に活躍できる人材を育成している。教職員及び学生・生徒も、理念・目標について理解できている。

| 評価項目 | 評価 (4～1) |
|--|----------|
| ・ 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか） | 4 |
| ・ 学校における職業教育の特色は定められているか | 4 |
| ・ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか | 4 |
| ・ 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか | 4 |
| ・ 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか | 4 |

【評価委員コメント】

学校としてしっかりと運営している。

(2) 学校運営

本校は学則に基づき運営されている。

組織・管理運営は、校長及び課程長が統括し教員会議を実施、事務部門は事務長が中心となり、職員との情報共有が適切に行われている。定例の教員会議は、毎回全教員が出席して、年間カリキュラムについての協議、改善に努めている。

学校運営の充実を図るため、「教職員相互の理解」「目標・方針の共有や一致」を目指して、教職協働を進めていく。

| 評価項目 | 評価 (4～1) |
|--|----------|
| ・ 目的等に沿った運営方針が策定されているか | 4 |
| ・ 運営方針に沿った事業計画が策定されているか | 4 |
| ・ 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか | 4 |
| ・ 人事、給与に関する規程等は整備されているか | 4 |
| ・ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか | 4 |
| ・ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか | 4 |
| ・ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか | 4 |
| ・ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか | 2 |

【評価委員コメント】

カリキュラムの見直しが徹底され、また教育活動はWEBを利用した公開については適切に行われており、周知が行き届いている。

(3) 教育活動

本校ではMI理論(多重知能理論)を基に自分・他者を理解することで自分の強みを探れるようカリキュラムを設計した。

本校での学びを通して自分の強みを理解し、エントリーポイントを作り、他者との関係を育みながら表現教育を行なっていくことを目指している。

作品制作に「他者の視点」が組み込まれ、より訴求力のある表現ができるようになる

| 評価項目 | 評価(4～1) |
|---|---------|
| ・ 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか | 4 |
| ・ 教育理念、育人人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか | 4 |
| ・ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか | 4 |
| ・ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか | 4 |
| ・ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか | 4 |
| ・ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか | 4 |
| ・ 授業評価の実施・評価体制はあるか | 4 |
| ・ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか | 4 |
| ・ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか | 4 |
| ・ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか | 2 |
| ・ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか | 4 |
| ・ 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか | 4 |
| ・ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか | 4 |
| ・ 職員の能力開発のための研修等が行われているか | 4 |

【評価委員コメント】

- ・ 自己肯定感が低い学生が増加していることから、授業で使用している講評ノートに褒められたことをしっかりと記載させる教育の改善が必要。
- ・ 学生同士の積極的なディスカッションや講評を取り入れたカリキュラムは評価できる。
- ・ 立体を制作するカリキュラムが少ないように感じる。立体制作を取り入れた新しいカリキュラムを作成し、学生たちの気づきや成長を促す取り組みを行っても良いのではないかな。

(4) 学修成果

| 評価項目 | 評価（4～1） |
|---|---------|
| ・ 就職率の向上が図られているか | 4 |
| ・ 資格取得率の向上が図られているか | 2 |
| ・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか | 4 |
| ・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか | 4 |

【評価委員コメント】

- ・ 就職カウンセラーの導入等が行われたことで就職内定率が増加しており、就職に対する取り組みが評価できる。
- ・ 専門課程では武蔵野市との産学連携授業や企業連携を充実した。また高等課程においても公募展に入選を果たすなど、社会での活躍が評価できる。

（５）学生支援

学生支援の一環として他大学との連携授業、企業デザイナーや漫画家、アーティストの外部講師による特別授業も実施している。

卒業生や企業と連携して、学生に就職への意識を高められる環境を提供できるよう、教職協働の取り組みとして組織的に進めていく。

| 評価項目 | 評価(4～1) |
|---|---------|
| ・ 進路・就職に関する支援体制は整備されているか | 4 |
| ・ 学生相談に関する体制は整備されているか | 4 |
| ・ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか | 3 |
| ・ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか | 4 |
| ・ 課外活動に対する支援体制は整備されているか | 4 |
| ・ 学生の生活環境への支援は行われているか | 4 |
| ・ 授業評価の実施・評価体制はあるか | 4 |
| ・ 卒業生への支援体制はあるか | 4 |
| ・ 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか | 3 |
| ・ 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか | 4 |

【評価委員コメント】

就職対策のためのエージェント企業との協力、就職カウンセラーの導入を行っている。同時に授業評価もアンケート形式で行い、教員へのフィードバックも適切に行なっている。毎年、多くのアーティスト、企業が授業に参画しており、評価できる。

(6) 教育環境
アメリカ・ボストン・チルドレンミュージアムと連携した教育プログラムを実施し、海外研修も計画中である。
企業連携によるインターシップの導入を図り、写生合宿を実施することで集団行動、グループワークなどを充実させた。

| 評価項目 | 評価 (4～1) |
|--|----------|
| ・ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか | 4 |
| ・ 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか | 3 |
| ・ 防災に対する体制は整備されているか | 4 |

【評価委員コメント】
写生合宿では、領域の垣根を超えた講評会や作品鑑賞ができたことは評価できる。
卒業制作展示のクオリティを向上させる取り組みを行う必要がある。卒業制作は学校の質の高さを表す大切なイベントである。

(7) 学生の受け入れ募集

| 評価項目 | 評価 (4～1) |
|-------------------------------|----------|
| ・ 学生募集活動は、適正に行われているか | 4 |
| ・ 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか | 4 |
| ・ 学納金は妥当なものとなっているか | 4 |

【評価委員コメント】
特になし

(8) 財務

専門課程においては、入学者定員を 60 名に対し 59 名が入学。高等課程は入学者定員 40 名に対して 43 名が入学し、財務基盤が安定してきている。

| 評価項目 | 評価 (4～1) |
|----------------------------|----------|
| ・ 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか | 4 |
| ・ 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか | 4 |
| ・ 財務について会計監査が適正に行われているか | 4 |
| ・ 財務情報公開の体制整備はできているか | 4 |

【評価委員コメント】
特になし

(9) 法令等の遵守
法令等の遵守関連省庁への届出をはじめ、適正な運営に努めている。学校関係者評価の実施及びその結果の公表については、令和元年度中に体制を整え実施し、令和 6 年度中に公表していく。

| 評価項目 | 評価 (4～1) |
|---------------------------------|----------|
| ・ 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか | 4 |
| ・ 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか | 4 |
| ※・ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか | 4 |
| ※・ 自己評価結果を公開しているか | 4 |

【評価委員コメント】
特になし

(10) 社会貢献・地域貢献

| 評価項目 | 評価 (4～1) |
|---|----------|
| ・ 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか | 4 |
| ・ 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか | 4 |
| ・ 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか | 3 |

【評価委員コメント】

今年度についても継続して、東京消防庁のはたらく消防写生大会審査などを実施していることは評価できる。同時に武蔵野市との産官連携、武蔵野警察署のチラシ作成など地域の公共機関との連携は大変評価できる。

また、夏季期間にこども絵画教室を実施することで、地域の学童教育に貢献しており、多くの学生がボランティアとして参加している点は評価できる。

(11) 国際交流（必要に応じて）

| 評価項目 | 評価 (4～1) |
|---------------------------------------|----------|
| ・ 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか | 4 |
| ・ 留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか | 4 |
| ・ 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか | 4 |
| ・ 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか | 4 |

【評価委員コメント】

特になし。

学校関係者評価委員の評価結果について

上記報告内容は、学校関係者評価委員
として、妥当な評価であることを確認
し、認めます。

令和 7 年 3 月 31 日
武蔵野学芸専門学校

武蔵野学芸美術教育研究所